

実践例「学習指導の深化・充実」

「課題5 学ぶ意欲を高める指導方法の改善と充実」

I 学校名 北斗市立沖川小学校【渡島管内】

II 研究の概要

1 研究主題

確かな学力を身に付け、自ら進んで学ぶ子どもの育成
～複式学級の特性を生かし、基礎基本を大切にした指導の在り方～

2 主題設定の理由

1) 教育目標の具現から

本校の教育目標である「明るくじょうぶな子」、「よく考え工夫する子」、「なかよく助け合う子」、「ねばり強くやりぬく子」を目指し、平成14年度より重点教育目標として「かかわり合い、つなぎ合い、伸び合う子」が設定された。

本校の特色である小規模・複式・少人数の特性をいかし、教科のみならず総合的な学習の時間や特別活動など教育活動全般で、本校のグランドデザインである「学びづくり（自己の成長や学ぶ喜びを実感できる魅力ある授業）・「身体づくり（楽しさや喜びを実感し、けじめある生活や体験活動）」・「仲間づくり（自他を尊重し、互いに高め合い協働的に取り組む活動）」を基盤とした教育の充実が図られている。これらの活動を通し、子どもたちひとりひとりの「できた！わかった！」が増えていくと、自己肯定感や満足感を得られるようになり、「（もっと）知りたい！」「（もっと）やりたい！」と自ら進んで学ぶことができる児童を育成することが、本校教育目標の具現につながると考えた。

2) 地域及び児童の実態から

本校の児童は、純朴で素直な子が多く、与えられた仕事は最後までやり遂げようと努力する子ども達である。また本校は、函館市近郊にありながら自然豊かな環境に囲まれ、稲作やハウス栽培などの農業が盛んな地域にある。歴史的建造物である松前藩戸切地陣屋跡も近く、春には桜の花見に多くの人々が訪れる地域でもある。

平成13年度より実施してきた、地域の自然・文化・人々を対象とした総合的な学習の時間「ふれあい学習」において、

- ・課題を（見つけ）追求する力
- ・考える力
- ・計画力（企画力）
- ・判断力
- ・コミュニケーション力
- ・情報活用力
- ・表現力

の7つ力を高めようとし、児童の思いや願いを受けとめた魅力ある学習活動を展開することができている。これによって、児童の意欲や主体的な学びが形成されつつある。

近年の少子化傾向のため完全複式学級となったが、児童は複式授業形態にも慣れ、

課題に対して自ら考え、深め合い、解決する態度が身に付いてきている。また、児童朝会や集会・そば収穫祭・交流学习等、他者と交流する場面が多く設定されており、生き生きと活動する姿が見られる。

しかし、発表となると決まったパターンでの発表はできるが、自分の意志を伝える語彙が少なく、「楽しい」「うれしい」などの単純な表現になってしまったり、心情や情景にあった表現ができなかったり、簡単な文章にまとめたり、わかりやすく話したりすることが苦手な児童が多い。

算数科においては、「数と計算」や「量の測定」など算数の基礎・基本の定着が不十分である。また学習した内容を実践する場が少ないため、学習内容を日常生活と結びつけづらい実態もあり、一生懸命学習に取り組んでいるが、それが学力には結びついていない。

3 研究仮説

○ 日常の学び方を意図的・計画的に指導することで、児童は見通しをもって学習に取り組む、主体的に学び、考えることができるであろう。

○ 個に応じた手立てを充実させることで、わかる授業につなげることができるであろう。

4 研究の重点

① 学びを充実させる学習指導の在り方

ア 目的意識や期待感を持たせる導入・課題の設定

イ ゴールに見える学習過程の工夫

ウ 沖小の学習スタンダード〈な・か・よし・くら・ぶ〉に沿った学習過程の構築

・ 学習規律

・ 学習過程

・ 学習リーダーの進め方（在り方）

エ 明確な指示による間接指導時の学習の充実

・ ホワイトボードや黒板による指示

・ 算数用語の活用

・ 問題解決のための手がかりの掲示（掲示物など

の学習環境を整える）

・ ICT機器の効果的な活用

② 基礎・基本の定着に向けての個に応じた指導の工夫のあり方

ア 単元に向かうまでの手立て

・ 学力検査の実施

・ 結果のまとめ、考察（個人）

イ 授業時間以外の手立て

・ 宿題や家庭学習の取り組み

・ 朝学習の習慣化



Ⅲ 実践例

1 学びを充実させる学習指導のあり方

① ㊦の工夫（意図的に興味関心を引き出す工夫）

※他学年は前時の復習問題や宿題の答え合わせ

- ア 既習の学習内容を想起できるような図や式（前回の学習内容を引き出す習慣づけのため、掲示物を再利用し前回とほぼ同じ図を示す等）
 - ・式の数字操作でデジャブを引き出す
- イ 日常生活に結び付けられるような問題設定
 - ・文章を当該学年の生活様式に沿ったものにリメイクする。（ex花束→トマトの苗、紙の束→お金、学級全員→沖小全員等）

② ㊧ ㊨（自力解決時の説明）の簡略化～シンプルイズベスト

- ア 正しい算数的な用語を用いて
- イ 見やすい（説明しやすい）図→目盛りや図形（拡大・色着けなど）を使って
- ウ 式を丁寧に（計算の過程などがわかるように）
- エ 文章はできるだけ簡易に（結論・理由などを意識しながら）
 - ※できるだけ、セリフの書き写しにならないように

③ ノートや掲示物を見返す習慣付けるために

- ア 丁寧な（見返せるような）ノート作り（昨年度からの継続事項）
- イ 掲示物の掲示の工夫（学年で場所を分ける、探しやすいように類別したり表題をつける等）



2 基礎・基本の定着に向けての個に応じた指導の工夫の在り方

① 実態調査（得意不得意など）の記録を残す

- ア 成績データの活用：成績入力や診断表の印刷
- イ 全国学力状況調査・CRTの結果の考察、交流

② 一人学年の学習過程（学力向上を目指して）

- ア 自力解決はシンプルに（教科書の解法を説明させるなどでもよい）
- イ 早めにまとめ、問題演習などはパターン化し、一人で取り組めるようにする。
 - ・丸付けの方法などを工夫

3 研究の成果と課題

① 成果

- ア 正しい算数的な用語を用いた授業を構築することができた。
- イ 視覚に訴える見やすい図や表を用いることで理解が深まった。
- ウ 文章はできるだけ書かせることで理解が深まった。

② 課題

- ア 結論から話すなど、発表の仕方について整理する必要がある
- イ 家庭学習方法の改善が必要である
- ウ 朝学習の内容の個別化が必要